

# 事故原因の詳細を明かさぬまま 米軍オスプレイが飛行再開

アメリカ軍は昨年11月の鹿児島県屋久島沖での墜落事故を受けて見合わせていたオスプレイの飛行を、3月14日朝、普天間基地で再開させた。オスプレイが沖縄県内を飛行するのは昨年12月7日の飛行停止措置以来では初めてで、沖縄県が事故原因の詳細が明らかでない中で再開に反発を強めているほか、鹿児島県からも丁寧な情報提供を求める声があがっている。

## 突然の飛行再開

昨年11月29日、鹿児島県屋久島沖でアメリカ軍所属のオスプレイCV22が墜落し、乗員8人が死亡した事故を受けて、アメリカ軍と陸上自衛隊はすべての機体について飛行停止の措置をとっていたが、3月13日、防衛省は「整備などを終えた機体から国内での飛行を段階的に再開する」と発表し、それをよると、事故の



米軍普天間飛行場から飛び立つオスプレイ(3月14日)

高度を上げて飛行を始めた。その後オスプレイは、那覇市の市街地上空などでも飛行している様子が確認された。アメリカ海兵隊第1海兵航空団も「14日から普天間基地でオスプレイの飛行を再開した」との発表を行ない、その理由について「アメリカ軍の機関が安全性を優先する綿密なデータ主導のアプローチに基づいて、安全に飛行できると判断したためである」としている。

事故原因は明示せず  
一方、事故原因の詳細が明らかにされていない中で飛行再開については、地元の宜野湾市が懸念を示し、沖縄県も飛行停止措置の解除からほどなくの再開は「強引だ」などと反発を強めていたほか、鹿児島県からもより丁寧な情報提供を求める声があがっている。防衛省は3月13日、県や県内の基地周辺市町村などに、飛行再開の方針を説明を行なったが、事故原因に関する詳細

が明かさぬまま再開は「納得できない」(松川正則宜野湾市長など、厳しい声があがっている。

## いきなりの住宅上空の飛行に憤り 玉城・沖縄県知事



た。その後オスプレイは、那覇市の市街地上空などでも飛行している様子が確認された。

沖縄県の玉城知事は3月14日午後、県庁で記者団の取材に応じ、「沖縄防衛局から事故原因の特定および安全対策に関する説明があつたが、具体的な内容は明らかにされない。県として到底納得できず、県として到底納得できないものではなく、十分な説明があつたとも言えない。こうした説明で飛行が再開されることには到底納得できず、認めることはできない」と述べ、飛行再開に強く抗議するとともに、アメリカ軍と日米両政府に対してオスプレイの配備撤回を求めていく考えを示した。

また、オスプレイの飛行が市街地で確認されていることについて、「ありえないと思う。いきなり普天間の住宅地の上空を飛ばすということ自体、非常に憤りを禁じえない」と述べ、アメリカ軍の対応を批判した。

さらに「オスプレイが配備されて以降、政府が国民に対して丁寧な説明責任を果たしてきたとは到底言えない。県内でも墜落して、危険極まりなく、『欠陥機』ともやゆされている」と述べ、政府やアメリカ軍の対応を批判した。

そのうえで、「引き続き、アメリカ軍と日本政府に対し、事故原因や対策が明らかになるまで飛行を再開させないこと、オスプレイの配備撤回を求めていく」と述べた。

木原稔防衛大臣は3月9日の会見で「特定の部品が事故の原因であるというところを、これまでにないレベルで詳細に報告を受けている。私自身も、その報告を受けて合理的だと納得している」と語った。一方で、米国内で訴訟が行なわれる可能性があり、現時点では事故原因を明らかにできないと説明しているが、この点について、玉城知事は「合理的であると認められた内容が、アメリカ側の特段の事情によって公表すること

ができないということについては、非常に我々としては納得できない」と述べた。さらに「日本政府側としては、もう少し国民に対して丁寧な説明を行なうべきだと申し入れ、不安を払拭するための何らかの方法を取るべきではなかったか。引き続き、その説明を求めていかなければならない」と強調した。「危険極まりない欠陥機と揶揄されているオスプレイの配備は、即時撤回すべきだ」ということをこれからも要求し続けていきたい」とも語った。

## 陸自オスプレイも飛行再開

陸上自衛隊は、昨年11月のアメリカ軍の墜落事故を受けて見合わせていたオスプレイの飛行を3月21日、千葉県の駐屯地で再開させた。当面は、駐屯地の周辺や洋上などで基本的な訓練を行なうとしている。

陸上自衛隊は、輸送機オスプレイ14機を千葉県の本更津駐屯地に暫定的に配備しているが、昨年

11月、鹿児島県屋久島沖でアメリカ軍のオスプレイが墜落して乗員8人が死亡した事故を受け、飛行再開には強く抗議する。

リコプター団の団長が公表を決めたという。航空自衛隊や海上自衛隊は部品落下事案について基本的に全て公表しており、「公表しないのは隠蔽に他ならない」と批判が噴出している。

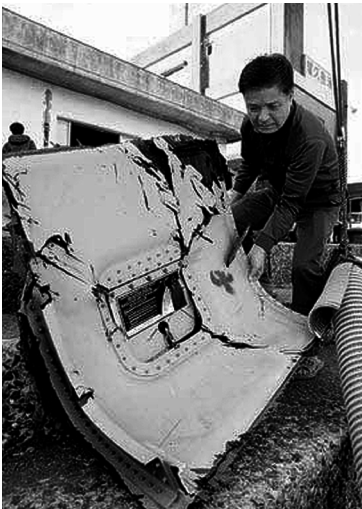
## 陸自オスプレイの部品落下 昨年7月事実を公表せず

昨年7月に東京湾周辺で訓練飛行をしていた陸上自衛隊のV22オスプレイから、部品が落下したことが3月14日、明らかになった。この事実を陸上自衛隊では、「外部への影響が小さい」と判断し公表していなかった。

陸上自衛隊によると、V22オスプレイは昨年7月11日午前、本更津駐屯地(千葉県)を離陸。東京

湾周辺で訓練飛行を行なった後、駐屯地での着陸後の点検で、左エンジンのナットや配線の部品がなくなっていたことが判明した。陸上自衛隊のオスプレイが部品を落下させたのは初めて。

木更津駐屯地は海に面しており、海上で落下した可能性があるため影響は少ないと判断。オスプレイを運用する第1へ



漁業者らに回収されたオスプレイの一部とみられる破片(2023年12月30日・鹿児島県)

が回収された。この破片は、昨年7月に東京湾で墜落したオスプレイの一部とみられる。陸上自衛隊は、この事実を公表しなかった。この事実を陸上自衛隊では、「外部への影響が小さい」と判断し公表していなかった。



部品落下事故を起こした機体と同型のV22オスプレイ